

令和元年 8 月 20 日

8 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では長雨の影響により一部生産が遅れている箇所もあるが、間伐材を中心に順調な入荷を見せている。地域によっては薬剤を散布しながら生産している。スギ柱材は荷動きが見られ、価格も新材が上向き気配だが、その他のスギ小径木・中目材、ヒノキ材は全般的に荷動きが鈍く、価格は低迷状態が続いている。

群馬県でも原木の出材は順調で集荷も容易だが、虫害材が増えている。原木価格は安値安定の状態にある。原木在庫は十分な状況で、システム契約以外の入札は手控えている。地場の製品市場、材木店、工務店からの受注は低調だが、8月のプレカット工場からの受注は月末まで順調である。製品在庫は入梅とともに増加したが、梅雨が明けて荷動きが回復して在庫は平常となった。製材品価格は少し下落して安定している。

2. 米材

米加産地では山火事警戒時期の真っ只中だが、気温は低く、湿度も下がらず平穏な状況である。港頭在庫は減少気味だが、不足感はない。ウェアハウザー社の8月積み対日価格(推定)はIS級\$820、前月比\$10ダウンの決着で4ヵ月連続の値下がりとなった。産地側に下げ要因はないが、前月同様、日本国内の米マツ平角の競合品である欧州RW集成平角の先安感を考慮してのこと。米国製材品市況は反落し、カナダBC州内陸工場の閉鎖のニュースの新鮮味が薄れた形。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(8/2)は\$346で7月頭に比べ3.6%のダウン。SPFの価格はJ-Gradeも底値となり、現在は若干の値上げ基調。第4・四半期は生産量を落とし、在庫も捌けていることから値上げの方向で話が進んでいる。

6月の原木入荷量は242千 m^3 、1~6月累計で1,332千 m^3 (前年同期比1.9%減)。出荷量は225千 m^3 、1~6月累計で1,282千 m^3 (同3.4%減)。在庫は217千 m^3 に増加し、在庫率は1.02ヵ月と久しぶりに1ヵ月を上回った。国内製材メーカーの稼働は引き続き順調。7月の東京木材埠頭の入荷は26千 m^3 (前月比25.2%増)、出荷は23千 m^3 (同1.7%増)、在庫は51千 m^3 (同6.0%増)。プレカット工場の受注は盆明けから9月頭にかけて順調な模様。ただし、先安観があることから買い控えが続いており、出荷は低調である。

3. 南洋材

サバ州では天候は良好で伐採も活発だが、現時点で原木輸出再開の話は出ていない。サラワク州も天候良好で伐採は活発。FOB 価格の軟化によりインド向け引合が増えている。台湾・ベトナム・中国向け輸出は少量ながら安定。日本向けは希望樹種が揃わず安定した配船といえない。PNG、ソロモンでは天候不順で休業するサプライヤーもあり、供給量は減少。米中貿易戦争の影響で中国向け輸出が減っているが、ベトナム・韓国・日本・インド向けが支え、需給バランスはとれている。8月予想の原木入荷7千 m^3 、出荷12千 m^3 、在庫30千 m^3 、製材品入荷は33千 m^3 。フリー板は市況が非常に悪く、生産調整に入っている。

4. 北洋材

シベリア主要シッパーのアカマツ原木減、品質低下の状況に変化はない。工場稼働は低調でアカマツ野縁の上級グレードの対日供給量は依然低水準。対日向けカラマツ原木と単板も減少。6月に発生したシベリア/ニジデウディンスク地区の大洪水は対日製材工場、物流に影響はなかった。アカマツ現地挽き完成品の産地価格はジリ高。現地挽き原板の良材は記録的な高値。上級グレードの流通在庫は皆無で国内価格も毎月ジリ高が続いており、WWやエゾ等に代替の動きがある。アカマツ原板は各メーカーとも必死で探し、ここに来て在庫が増えてきた。引合も一服。8月予想の原木入荷、出荷とも10千 m^3 、在庫は20千 m^3 。製品入荷量(東京+川崎)は16千 m^3 、出荷17千 m^3 、在庫32千 m^3 。

5. 合板

合板用原木について、東北産カラマツは落ち着いてきたが、高値張り付きの状況。スギ材は安定し変化はない。ロシア材の価格は横ばいだが、出材は限定的。米材は弱含みで、出材は減少傾向にある。南洋材について産地の在庫量は問題ないが、原木価格が低調となっている。

6月の国内合板生産量は過去最高の28.6万 m^3 となり、そのうち針葉樹合板は27.6万 m^3 となった。出荷量は27.0万 m^3 で在庫量は14.1万 m^3 となり、前月に比べ増加となった。このうち構造用合板は10.9万 m^3 。針葉樹合板は活発な荷動きが続いており、9mm、厚物(実付)など一部アイテムが少なくなっている。針葉樹合板は高水準の出荷が続いているため品薄感が出ており、価格は緩やかな値戻しとなっている。6月合板輸入量は18.9万 m^3 と5月に続き、20万 m^3 を割った。インドネシアからは平均的な輸入であったが、マレーシアからは

先月より少ない結果となった。産地インドネシアでの原木価格が低位状況に変化はない。マレーシアでは日本向けの受注は少なく、中東向けにシフトしている工場も散見される。原木在庫は潤沢にあり、今のところ問題はない。先行き、輸入量が少ないため、アイテムによっては品薄感が出てくるものと見られる。

6. 構造用集成材

7月のラミナ入荷は例年より若干少なめだが順調。8月も同様の量で入荷予定。国内メーカー各社は9月に向けてラミナの入荷を絞っている。第3・四半期はRW、WWともに前环比5~10ユーロの値下がりで見え始め、第4・四半期は供給量の調整を踏まえた値上げ交渉を視野に入れている。WW管柱は1,850円~1,880円/本、RW平角は58,000円/m³。スポットで55,000円/m³や先物で52,000円/m³等も散見される。スギ集成柱は不足感があり、値上げの話も聞こえる。

7. 木材チップ

製紙関係が針葉樹系を抑制しているため、針葉樹原木の余剰感が強い。解体材は定期修理、トラブル等で使用量が大幅に減少し、各社受入制限を行っており、解体、建築工事そのものにも影響が出始めている。製紙用針葉樹チップは6~7月の定期修理は終わったが消費抑制中。燃料用チップは製紙・バイオマス発電とも6~7月の大型定期修理は終わったが、大幅な消費回復は望めない状況。製紙用針葉樹チップは過剰在庫の状態、燃料用チップは各工場とも在庫大幅増加で受入制限、受入止めを行っている。

8. 市売問屋

6、7月は降雨が多かったせいか製品市場に活気が無かったが、ここに来て少し集荷がしやすくなっている。国産材、外材の構造材ともに荷動きが悪い。造作材のスギ、スプルーース等の動きも悪い。並材中心の流れになっているため、材木店は在庫を持たないため、当用買い中心になっている。

9. 小売

木材、建材ともに大きな変動は感じないが、都内の市場撤退が続き、仕入先が絞られている。スギ、ヒノキとも変動はなく保合い。米ツガ材は45×90は依然少ないが、需給バランスが取れており価格は横ばい。ロシア材の上級グレードは入荷が少なく、3m材は更にタイト感が強い。価格転嫁が進まず厳しい状況。造作材は非住宅物件の見積が増え回復の兆し。合板の荷動きは停滞しており、価格は保合い。各プレカット工場は一定の受注量を確保しているが、長雨の影響で工程の遅れも見られる。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	↘	↘
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
米材	丸太	産地価格 国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ	→
			米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↘
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	→
		米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	↘	
		米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↘	
南洋材	丸太	産地価格 東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー	↗
			メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
	製材品	産地価格 東京・問屋店頭 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
			ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産) 同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗ →
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
			アカマツ (KD) 16×40上級	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↘
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→